

# 市民病院だより

## インフルエンザ対策

感染管理認定看護師

永瀨 智寛

毎年、集団発生で問題となっている「インフルエンザ」についてお話しします。

インフルエンザは風邪と違い重症化しやすく、流行の大きい年には、インフルエンザ死者数および肺炎死者数が増加します。特に高齢者がこの影響を受けやすいため、予防接種対象者として①65歳以上、②60歳以上65歳未満の心臓・腎臓・呼吸機能・HIV感染などで特定の条件に当てはまる人は一部負担でワクチン接種できる制度があります。(詳細は市健康増進課まで問い合わせください)

インフルエンザを予防するためには大きく分けて、①ワクチン接種、②インフルエンザの伝播遮断の2つの方法があります。

### ワクチン接種について

ワクチンの効果は接種後約2週間〜5カ月とされています。そのため、過去の発生状況から予防接種の効果を高めるため、一般的には10月から12月中旬までの間に行うことが適当とされています。

### ワクチンの効果

発病の阻止と症状の軽減があります。老人福祉施設・病院に入院している65歳以上の高齢者については34〜55%の発病を阻止し、82%の死亡を阻止する効果があったとされています。ワクチン接種は安全性が証明されている予防効果の高い方法です。接種を希望される人は、かかりつけ医または、お近くの医療機関にご相談ください。

### 伝播遮断の方法

インフルエンザウイルスは、飛沫(唾液などのしぶき)と、接触(ドアノブなど手が触れるところに付着しているウイルスに触れること)で伝播します。そのため、うがい(水のみで行っても効果があります)と手洗い、商業施設などに設置されているアルコール性の手指消毒剤の使用は、インフルエンザウイルスからの感染を予防することになり、ひいては伝播予防することにもつながります。

### 咳エチケットについて

咳エチケットとは、咳やくしゃみをする際には①袖口やティッシュ・ハンカチで口・鼻を覆う、②マスクを着用することです。咳やくしゃみを手で押さえることは手にウイルスが付着するので、その手で触れるドアノブなどにウイルスを付着させることになるため推奨されていません。

また、インフルエンザは、症状が出現する前から人にうつす危険性があります。そのため、

普段から咳エチケットを行っておくことが大切です。

### まとめ

できるだけワクチンを接種しましょう。そして、日頃から手洗いうがい、咳エチケットを心掛けることで、インフルエンザ感染の拡大予防に努めましょう。

### インフルエンザと風邪の比較

|           | インフルエンザ                              | 風邪                                       |
|-----------|--------------------------------------|--|
| 原因        | インフルエンザウイルス(ほとんどがA型、B型)              | 80~90%がさまざまなウイルス性(細菌性はわずか)               |
| 予防方法      | ワクチン + 感染経路の遮断                       | 感染経路の遮断                                  |
| 咳・くしゃみの対処 | 咳エチケットの実施                            | 咳エチケットの実施                                |
| 治療方法      | 抗インフルエンザ薬が有効(吸入や飲み薬が基本。重症者には点滴もあります) | 対症療法で治療<br>ウイルスには抗菌薬は無効!!<br>細菌性には抗菌薬が有効 |

引用・参考文献：予防接種ガイドライン検討委員会執筆・監修「予防接種必携」 他

お知らせ

インフルエンザ予防接種を行っています。

事前に問い合わせください。

【問合せ】小城市民病院 ☎ 73・2161 ホームページ・アドレス <http://www.city.ogi.lg.jp/hospital/>